

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・業務改善により生徒と関わる時間を確保し、教職員の資質向上を推進し、生徒に自ら学ぶ続ける態度を育成する。
- ・安全で安心な教育環境を確保し、家庭・地域と連携し、知・徳・体のバランスが取れ、社会に貢献できる生徒を育成する。

学校教育に関する重点取組

| | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
|---|--|------------|
| 1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む | 3.5 | 3.5 |
| (1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業・協議の実施、授業改善アドバイザーや外部講師、指導主事を活用すことにより、学校の課題である授業改善を図った。 ○ 小学校と連携した効果的な授業スタイルに取り組んだ。 ○ 小学校と連携した研修会、相互授業、入学前テスト等を実施するなど、9年間を見通した共通の課題に取り組んだ。 ○ 効果的な少人数指導や放課後学習、家庭学習を推進し、生徒が自ら学習に取り組む態度を育成した。 ○ 小学校、家庭と連携し、個に応じた学力の向上を支援した。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ アクティブラーニングなどの授業方法は、準備に時間が掛り、継続しにくいところがある。 ○ 家庭学習や読書に掛ける時間が、あまり増えていない。 ○ 習熟度別の少人数指導が有効であるが、進度や評価が難しい。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を充実させ、ALが実施しやすい環境を作る。 ○ 少人数授業は教科間で情報を共有し、計画的に進める。 ○ 家庭学習ノートなどを作成し、保護者と協力して取り組む。 ○ 先進校視察や研究授業、研修会へ積極的に参加する。 | |
| 2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る | 3.0 | 3.0 |
| (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の教科化に向けて年間計画を作成し、学校全体として組織的に「道徳」を推進した。 ○ 講師を招聘し、小学校と合同で研修会を持ち共同研究を行った。 ○ 規則正しい生活習慣を確立し、生徒一人ひとりの内面理解に努め、自己判断能力を養っていった。 ○ 自他の命を大切にし、お互いを尊重し、いじめを絶対許さない態度を育成していった。 ○ 教育相談を充実させ、いじめの早期発見・早期対応に努めた。 ○ 小中が連携し、9年間を見通した指導計画を作成し、他者と協力・協働しながら将来を生き抜く力を育成していった。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動全体とリンクさせ、実践的な道徳性を身に付ける。 ○ 携帯・スマホによるネットトラブルについては、見えない部分も多く、対応が困難である。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育活動全体とリンクさせた全体年間指導計画を作成する。 ○ 生徒に関わる時間や教育相談の機会を増やし、いじめの未然防止に努める。 ○ 情報モラルに関して、授業や講演会で継続的に指導する。 ○ キャリアノートやあまっこステップアップ調査を活用し、個に応じたキャリア教育や進路指導を推進する。 | |

| | | |
|---|---|------------|
| 3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| | 3.0 | 3.0 |
| (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業や研修により授業改善に努め、指導力の向上を図った。 ○ 学校評議員制度や学校評価制度を活かし、学校の組織力や教育水準の向上を図った。 ○ 学校業務改善を推進し、生徒に関わる時間の確保と教職員の健康保持に努め、活気ある学校作りに取り組んだ。 ○ 保護者や地域に学校の情報提供し、課題を共有し、地域と共に学校作りを推進した。 ○ 地域の活動やボランティアに積極的に参加した。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事は多く参加してもらえるが、オープンスクールは少ない。 ○ 若手教員が多く、指導力向上に時間を要する。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の内容や期間を改善し、HPなどで保護者や地域へ積極的に広報していく。 ○ OJT手法による若手教員の研修を積極的に取り入れる。 ○ 授業見学と教職員と面談を積極的に行い、スキルアップを図る。 ○ 管理職も率先し、研究推進委員会を積極的に活用し、指導力の向上を図っていく。 | |

| | | |
|---|--|------------|
| 4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| | 3.0 | 3.0 |
| (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る | | |
| 取組とその成果 | 課題と改善策 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の登下校の安全を確保するため、PTAや地域の方々と共に通学路で安全指導を行った。 ○ 自分の命は自分で守るため、防災に対する正しい知識と技術を身に付け、その場に応じた確かな判断できるよう防災訓練を行った。 ○ 地域や関係機関と連携した防災訓練を行い、避難所としての学校の役割を確認した。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災教育や訓練は行っているが、危機意識や瞬時の判断力を身に付けるのが難しい。 ○ 自転車の交通安全教室を実施し、安全運転が定着しつつあるが、大人のマナーが悪いケースも多い。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎は老朽化しているが、安全な生活環境を確保するため、日頃から施設・設備の点検を適切に行う。 ○ 保護者、地域と連携した安全教室や防災訓練を計画・実施する。 | |

| | | |
|--|------------|------------|
| 教育目標 | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| | 3.0 | 3.0 |
| (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実 | | |

| | |
|---|--|
| 取組とその成果 | 課題と改善策 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育・学習内容を充実させ、教員と生徒が共に学び続ける意欲・態度を育成した。 ○ 互いを尊重し、ともに生きる豊かな心と健やかな身体を育成した。 ○ ひとりひとりを大切にする生徒指導と進路指導の推進し、自己実現の意識の高揚を図った。 ○ 地域に根ざした信頼される学校作りを推進し、地域全体で生徒の育成を推進した。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校目標や課題を明確化することにより、学校が組織として改善に取り組む。 ○ 市教委と連携した業務改善を推進し、教職員の意識改革と生徒に関わる時間を確保する。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業研究、校内研修等を計画通り行い、実践的指導力の向上を図る。 ○ 地域や外部の人材を生かした生徒指導や安全・防災教育、進路指導を計画的に行う。 |

| | | |
|--|------------|------------|
| 研究テーマ | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| | 3.5 | 3.5 |
| (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実 | | |

| | |
|--|--|
| 取組とその成果 | 課題と改善策 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業、研究協議の実施、授業改善アドバイザー及び指導主事の活用し、指導力の向上を図った。 ○ ICT機器を購入し、アクティブラーニング授業の推進を図った。 ○ 小中合同研修会、相互授業参観、入学前テスト等を実施した。 ○ 小学校の授業スタイルを継続し、効果的な授業を実施した。 ○ 各種調査やアンケートを分析し、授業改善をベースにした学力向上を図った。 ○ 効果的な少人数指導や放課後学習を推進した。 | (課題) <ul style="list-style-type: none"> ○ 読書、家庭学習の時間に伸びが見られていない。 ○ 学力低位層の子どもたちの学力を十分に引き上げられていない。 (改善策) <ul style="list-style-type: none"> ○ ALや課題探求活動などを授業へ積極的に取り入れていく。 ○ 家庭連絡ノートなどの作成により、保護者と協力・連携した家庭学習の取り組みを行う。 ○ ステップアップ調査等の分析を活用し、小中で課題を共有し、9年間を見通した計画的な取組を構築する。 |

| | | |
|--|----------|----------|
| | 評価Ⅰ(教職員) | 評価Ⅱ(校園長) |
| | | |

| | |
|----------------|---------------|
| 取組とその成果 | 課題と改善策 |
| | |